

手順1

<https://conciierge.networld.co.jp>にアクセスし、
トップページ上部のメニューバーから「VSAN」を選択



**「VSAN」
をクリック**

手順2

VSANのサイジングは、左の列に入力した結果をもとに計算した結果が右の欄に**自動反映**されるようになっています。

そのため、まずは左の欄のみに入力を行ってください。

1 案件名

案件名	<input type="text"/>
-----	----------------------

2 VSANサイジング入力

総VM数	<input type="text"/>	VMs
ホストあたりのVM数	<input type="text"/>	VMs/ホスト
仮想ディスク数	<input type="text"/>	個
仮想ディスクサイズ	<input type="text"/>	GB

VSANサイジング結果

ベースモデル	
物理CPU数	個
CPUあたりのコア数	
ホストあたりのコア数	コア
サーバ内のベイ数	スロット
サーバ内のキャッシュデバイス数	推奨値:

手順2-詳細

1 案件名

案件名

任意の案件名を入力
※入力されていないと
結果が反映されません

2 VSANサイジング入力

総VM数

VMs

VSAN上に展開予定の
仮想マシン数

ホストあたりのVM数

VMs/ホスト

1ホストあたりの
仮想マシン数

仮想ディスク数

個

全体の仮想ディスク数

仮想ディスクサイズ

GB

1仮想マシンに割り当てる
ディスク容量

仮想CPU数

vCPU

1仮想マシンに割り当てる
vCPU数

仮想メモリ

GB

1仮想マシンに割り当てる
仮想メモリ量

耐障害性数

 補足

1

障害担保数
(1=1つの障害が起きても動作を
継続可能)

※入力が進むにつれてエラー表示が出ることがありますが一旦無視してすべて埋めてください。

耐障害性手法 補足	RAID-1
VMあたりのIOPS	<input type="text"/> IOPS
Readの割合	<input type="text"/> %
リバランス用に確保するスペースの割合 補足	30 %
例外的に2ノードを許可する 補足	No
オールフラッシュ/ハイブリッド	ハイブリッド
リンククローン/フルクローン	フルクローン
将来のための空き容量 補足	<input type="text"/> %

耐障害性を実現する方法
※RAID-5,RAID-6はオールフラッシュのみのサポート

メタデータやリバランス時に必要な
空き領域の割合
※推奨:30%

2ノードでの稼働を可能にする場合は
チェックしてください
※ただし2ノード環境外に別途
Witness アプライアンスをおく必要
があります。

サーバ仮想化の場合:フル
デスクトップ仮想の場合:任意

データ増大時の予約容量

手順3

左の列に入れた数値にあわせて、右の欄に反映されています。
赤くコメントがついている部分を確認し、コメント表示がなくなるよう数量等を調整して下さい。



1 案件名

案件名	テスト
-----	-----

2 VSANサイジング入力

総VM数	200	VMs
ホストあたりのVM数	50	VMs/ホスト
仮想ディスク数	200	個
仮想ディスクサイズ	30	GB
仮想CPU数	1	vCPU
仮想メモリ	4	GB

VSANサイジング結果

ベースモデル	AF-4	現在容量でホスト数が決まっています。キャパシティを増やすことでホスト数を抑えられます。
物理CPU数	2個	
CPUあたりのコア数	10	コア
ホストあたりのコア数	20コア	
サーバ内のベイ数	24スロット	
サーバ内のキャッシュデバイス数	1	台 推奨値：1台

手順3ー補足

サイジング結果

ベースモデル	<input type="text" value="AF-4"/>	現在容量でホスト数が決まっています。キャパシティを増やすことでホスト数を抑えられます。
物理CPU数	2個	
CPUあたりのコア数	<input type="text" value="10"/> コア	
ホストあたりのコア数	20コア	
サーバ内のベイ数	24スロット	
サーバ内のキャッシュデバイス数	<input type="text" value="1"/> 台	推奨値：1台

VMwareが定めているモデルにあわせて、入力項目に一番近いモデルを自動反映しています

AF:オールフラッシュ
HY:ハイブリッド
ホスト数を抑えたい場合はキャパシティ部分を調整して下さい

1ホストあたりに必要な物理CPU数を表示しています

物理CPUあたりに必要なコア数を表示しています

物理CPUあたりに必要なコア数を表示しています

キャッシュデバイスキャパシティ	200 GB 推奨値：160GB
サーバ内のキャパシティデバイス数	4 台 推奨値：本数×容量で8255GB以上
キャパシティデバイスキャパシティ	960 (SATA 6G) GB キャパシティが不足しています。
ベース構成IOPS	50000IOPS
ベース構成キャパシティ	3.75TB
必要台数	10台
コアあたりのVM数 ④ 補足	1
ホストあたりのVM数 (最終 - 障害時の最大値)	23
メモリ搭載量 (オーバーヘッドで20%加算済み)	107GB

要件に対してディスク容量が不足していることを表示しています。
ディスクサイズの変更およびデバイス数を調整して下さい。

手順4

すべての内容がエラーなく調整できると、最下部に2つのボタンが表示されます。

入力内容と結果を保存したい場合⇒「保存する」

結果をもとに見積りを依頼したい場合⇒「詳細見積りを依頼する」



見積りにつきましては、担当者より2～3営業日以内を目安にメールにてお送りさせていただきます。